



横浜市立大学附属市民総合医療センター内科専門研修施設群

研修期間：3年間（基幹施設1年間＋連携・特別連携施設2年間）

専門研修施設群の構成要件【整備基準25】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須です。横浜市立大学附属市民総合医療センター内科専門研修施設群研修施設は神奈川県および東京都内の医療機関から構成されています。

横浜市立大学附属市民総合医療センターは、神奈川県横浜市南部医療圏の中心的な急性期病院です。そこでの研修は、地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修します。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につけます。

連携施設、特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせ、急性期医療、慢性期医療および患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、基幹病院である横浜市立大学附属市民総合医療センターの他、

（連携病院）

- 1 公立大学法人 横浜市立大学附属病院
- 2 一般財団法人神奈川県警友会 けいゆう病院
- 3 一般社団法人日本海員掖済会 横浜掖済会病院
- 4 小田原市立病院
- 5 学校法人帝京大学 帝京大学医学部附属溝口病院
- 6 公益社団法人地域医療振興協会 横須賀市立市民病院
- 7 国際医療福祉大学附属熱海病院
- 8 国家公務員共済組合連合会 平塚共済病院
- 9 国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院
- 10 国家公務員共済組合連合会 横浜栄共済病院
- 11 国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院
- 12 公益社団法人 地域医療振興協会 横須賀市立うわまち病院
- 13 社会福祉法人 親善福祉協会 国際親善総合病院
- 14 社団法人日本厚生団 長津田厚生総合病院
- 15 社会福祉法人 恩賜財団 済生会 横浜市東部病院
- 16 社会福祉法人 恩賜財団 済生会 横浜市南部病院
- 17 社会福祉法人 聖隷福祉事業団 聖隷横浜病院
- 18 茅ヶ崎市立病院
- 19 地方独立行政法人 神奈川県立病院機構 神奈川県立足柄上病院
- 20 地方独立行政法人 神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター
- 21 地方独立行政法人 神奈川県立病院機構 神奈川県立循環器呼吸器病センター
- 22 独立行政法人労働者健康福祉機構 横浜労災病院
- 23 独立行政法人 国立病院機構 相模原病院

- 24 独立行政法人 国立病院機構 横浜医療センター
 - 25 独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜中央病院
 - 26 独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜保土ヶ谷中央病院
 - 27 日本赤十字社 秦野赤十字病院
 - 28 日本赤十字社東京都支部 大森赤十字病院
 - 29 平塚市民病院
 - 30 藤沢市民病院
 - 31 大和市立病院
 - 32 横浜市立市民病院
 - 33 横浜市立脳卒中・神経脊椎センター
 - 34 NTT 東日本関東病院
 - 35 川崎医療生活協同組合 川崎協同病院
 - 36 藤枝市立総合病院
 - 37 医療法人同心会遠山病院
 - 38 山梨県立中央病院
(特別連携施設)
 - 39 みながわ内科クリニック
 - 40 医療生協かながわ生活協同組合 藤沢診療所
 - 41 公益財団法人 神奈川県結核予防会 かながわクリニック
 - 42 神奈川みなみ医療生活協同組合 逗子診療所
 - 43 医療法人社団 松和会 弘明寺腎クリニック
 - 44 中島内科クリニック
 - 45 公益財団法人柿葉会 神奈川診療所
 - 46 田浦内科クリニック
 - 47 清水ヶ丘病院
 - 48 上六ッ川内科クリニック
 - 49 医療法人 横浜柏堤会 よこすか浦賀病院
 - 50 医療法人平和会 平和病院
 - 51 医療法人社団 小磯診療所
 - 52 社会福祉法人 心の会 三輪医院
 - 53 医療法人社団 はとりクリニック
 - 54 医療法人社団柏信会 青木病院
 - 55 医療生協かながわ生活協同組合 戸塚病院
 - 56 医療法人社団景翠会 金沢病院
 - 57 医療法人社団水野会 平塚十全病院
 - 58 公益財団法人 神奈川県結核予防会 中央健康相談所
 - 59 医療法人横浜柏堤会 戸塚共立第1病院
 - 60 三浦市立病院
 - 61 うしおだ在宅クリニック
 - 62 しまむらクリニック
- で構成しています。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療，より専門的な内科診療，希少疾患を中心とした診療経験を研修し，臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につけます。

地域基幹病院では，横浜市立大学附属市民総合医療センターと異なる環境で，地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修します。また，臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねます。

地域医療密着型病院では，地域に根ざした医療，地域包括ケア，在宅医療などを中心とした診療経験を研修します。

専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択

・専攻医 2 年目の秋に専攻医の希望・将来像，研修達成度およびメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に，研修施設を調整し決定します。

3 年間のうち 2 年間，市民総合医療センター以外の連携施設で研修をします。モデルコースを下に示します。

	コース記号	1 年目の研修病院	2 年目の研修病院	3 年目の研修病院
モデル	F-1	センター病院	協力病院	協力病院
コース	F-2	協力病院	センター病院	協力病院
	F-3	協力病院	協力病院	センター病院

なお，カリキュラムの知識，技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識，技術・技能研修も可能です（個々人により異なります）。内科専門研修開始時に将来の Subspecialty 領域をある程度決めておくことを検討しておくとう良いでしょう。

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】

基本的に神奈川県横浜市南部医療圏と近隣医療圏にある施設から構成しています。その他東京都，静岡県，山梨県，三重県の施設があります。

1) 専門研修基幹施設

公立大学法人 横浜市立大学附属市民総合医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 横浜市立大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ ハラスメント委員会が横浜市立大学に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が 40 名在籍しています（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会について集合研修や e-Learning の利用により定期開催（2015 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 4 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催（2015 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 40 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 2 演題）をしています。
指導責任者	安田 元 【内科専攻医へのメッセージ】 横浜市立大学は 2 つの附属病院を有し、神奈川県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 (常勤)	日本内科学会指導医 40 名、日本内科学会総合内科専門医 23 名 日本消化器病学会消化器専門医 10 名、日本肝臓学会専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名、日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、日本感染症学会専門医 3 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 40,608 名（1ヶ月平均） 入院患者 19,878 名（1ヶ月平均延数）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携を経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本救急医学会指導医指定施設 救急科専門医指定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医指導施設 日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 非血縁者間骨髄採取認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会指定研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 呼吸療法専門医研修施設 日本アフェレンシス学会認定施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 NST稼働施設 日本救急撮影技師認定機構実地研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本感染症学会研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本急性血液浄化学会認定施設 など

2) 専門研修連携施設

1 横浜市立大学附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 横浜市立大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ ハラスメント委員会が横浜市立大学に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が 81 名在籍しています（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015 年度実績 医療倫理 3 回、医療安全 129 回、感染対策 32 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的で開催（2015 年度実績 24 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 1 回）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 21 演題）をしています。
指導責任者	前田愼 【内科専攻医へのメッセージ】 横浜市立大学は 2 つの附属病院を有し、神奈川県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 81 名、日本内科学会総合内科専門医 47 名 日本消化器病学会消化器専門医 18 名、日本循環器学会循環器専門医 10 名、 日本内分泌学会専門医 7 名、日本糖尿病学会専門医 5 名、 日本腎臓病学会専門医 5 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、 日本血液学会血液専門医 6 名、日本神経学会神経内科専門医 10 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本リウマチ学会専門医 5 名、 日本感染症学会専門医 2 名、日本救急医学会救急科専門医 5 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 11,655 名（1 ヶ月平均） 入院患者 4,545 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内	日本内科学会認定医制度教育病院

科系)	日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など
-----	---

2 一般財団法人神奈川県警友会 けいゆう病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・けいゆう病院後期研修医(常勤)として労務環境が保障されています。 ・年一回ストレスチェックを行い、衛生管理委員会および庶務課で対処する体制があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が17名在籍しています(下記)。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催(2015年度実績 医療倫理1回、医療安全4回、感染対策4回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス(2018年度予定)を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

	<p>・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p> <p>・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し（2015 年度実績 けいゆう病院横浜中央地区病診連携会 2 回、地域連携症例検討会 2 回、みなとみらい肝炎勉強会 2 回、糖尿病内科病診連携の会 1 回）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。</p>
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、膠原病を除く総合内科、消化器、循環器、呼吸器、腎臓、神経、内分泌、代謝、血液、感染症、アレルギーおよび救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています。各専門科の学会でも年間数例の学会発表を行っています。
指導責任者	<p>永見圭一</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>横浜市みなとみらい地区にある 410 床の総合病院です。一内科制をとっており、各専門科をローテーションするのではなく複数科の症例を同時に主治医として担当することが当院の研修の最大の特徴です。専門医のサポートを得ながら診断と治療を行い、さらに自身の外来でフォローすることもできます。地域の中核病院として病診連携、病病連携を経験し、患者さんの社会的背景、療養環境に配慮した医療を行える内科医になってもらうことを目指しています。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 17 名、日本内科学会総合内科専門医 13 名、日本消化器病学会消化器専門医 8 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本腎臓学会腎臓専門医 3 名、日本肝臓学会肝臓専門医 3 名、日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本内分泌学会内分泌・代謝専門医 2 名、日本透析医学会透析専門医 1 名、日本アレルギー学会アレルギー専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 455 名（1 日平均） 入院患者 146 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本消化器病学会専門医制度認定施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本感染症学会認定施設</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本腎臓病学会研修施設</p> <p>日本肝臓学会認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設</p> <p>日本がん治療認定医機構認定研修施設</p> <p>日本緩和医療学会認定研修施設</p> <p>日本高血圧学会専門医認定施設</p> <p>日本神経学会専門医制度准教育施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設</p> <p>日本透析医学会教育関連施設 など</p>

3 一般社団法人日本海員掖済会 横浜掖済会病院

1) 専攻医の環境	<p>初期臨床研修制度の臨床研修協力施設（地域医療研修）である。 研修に必要な研修医室・図書室・インターネット環境がある。 当院常勤医師又は非常勤医師として労務環境が保障されている。 当院にコンプライアンス委員会が整備されている。 女性専攻医の為に医局、ロッカー室、休憩室、シャワー室、当直室が整備。</p>
2) 専門研修プログラム	<p>指導医が7名、内科系認定医・専門医が多数在籍（下記参照）。 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会との連携を図る。 医療安全管理・院内感染対策講習会を定期的に行い専攻医に受講を義務付け、その為の時間的余裕を与える。 地元医師会と共催し、地域参加型の合同症例検討会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、その為の時間的余裕を与える。</p>
3) 診療経験の環境	<p>カリキュラムに示す内科領域13分野の内、総合内科、消化器、呼吸器、血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。</p>
4) 学術活動の環境	<p>日本内科学会講演会あるいは地方会に年間で計1演題以上の学会発表する環境にある。 その為の時間的余裕を与えている。</p>
5) 指導責任者	<p>齋藤 紀文（副院長） [内科専攻医へのメッセージ] 当院内科は一般内科、消化器内科、血液内科、呼吸器内科を専門とする医師で構成されていますが、消化器内科・血液内科、呼吸器内科のみならず老年医療や福祉医療にも積極的な治療を行っています。 専門分野では消化管全般の治療、C型慢性肝炎の各種治療、肝癌の局所治療・カテーテル治療・白血病・リンパ腫治療等の実績があります。 また、専門医による専門外来（循環器・呼吸器・神経内科）を行っています。 地域医療・老年医療では、介護老人保健施設（えきさい横浜）を併設し、横浜市中区・南区において、医療・介護・福祉における地域医療連携の中心的役割を果たしています。 その一環として横浜市大附属病院と連携し、臨床研修医の地域医療研修や学生実習、及び地域の診療所との病診連携を実施。 又、横浜中央看護専門学校の実習を任されています。 内科専門医として、医療・介護制度を理解し、急性期医療・回復期医療、更には在宅医療迄をも学ぶ研修が出来ると思います。</p>
6) 指導医数	<p>日本内科学会認定医6名、日本内科学会総合内科専門医1名、 日本消化器病学会専門医3名、日本肝臓学会肝臓専門医2名、 日本消化器内視鏡学会指導医1名、日本消化器内視鏡学会専門医2名、 日本東洋医学会専門医1名、日本血液学会血液指導医1名、 日本臨床腫瘍学会専門医1名</p>
7) 外来・入院患者数	<p>外来患者 275名/日 入院患者 115名/日</p>
8) 病床数	<p>急性期一般病床 151床（併設の老人保健施設 88床）</p>
9) 経験出来る疾患群	<p>研修手帳にある13領域70疾患群の症例を幅広く経験する事が出来る。</p>
10) 経験出来る技術・技能	

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験する事が出来る。
1 1) 経験出来る地域医療・診療連携 急性期医療だけでなく医療・介護・福祉の連携を含め、高齢化社会に対応した地域医療体制を経験できます。
1 2) 学会認定施設（内科系） 日本大腸肛門学会専門医修練施設 日本血液学会認定血液研修施設

4 小田原市立病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ➤ 小田原市の正規職員（地方公務員）の医師として労務環境が保障されている。 ➤ メンタルストレスに適切に対処する部署（職員課給与・福利係）がある。 ➤ 監査委員・コンプライアンス担当が小田原市に整備されている。 ➤ 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室が整備されている。 ➤ 敷地内に院内保育所があり、利用可能である。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 指導医が7名籍している（下記）。 ➤ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ➤ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015年度実績 医療倫理2回、医療安全2回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ➤ 研修施設群合同カンファレンス（2018年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ➤ CPC を定期的で開催（2015年度実績3回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ➤ 地域参加型のカンファレンス（2015年度実績地元医師会合同勉強会6回など）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ➤ カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 ➤ 専門研修に必要な剖検（2013～2015年度実績平均7.3体）を行っている。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2015年度実績3演題）をしている。 ➤ 倫理委員会を設置し、定期的で開催（2015年度実績9回）している。 ➤ 治験管理室を設置し、定期的な受託研究審査会を開催（2015年度実績11回）している。 ➤ 専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われている。
指導責任者	<p>川口 竹男</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>小田原市立病院は、神奈川県西地域の基幹病院として、急性期医療及び高度医療に取り組んでおります。各大学病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。また、地域がん診療連</p>

	携拠点病院としての機能を有しているため、今後さらに重要性が増すがん診療含め、幅広い知識・技能を備えた内科専門医を目指して下さい。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 7 名、日本内科学会総合内科専門医 5 名、 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、日本糖尿病 学会専門医 1 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名、日本透析医学会透析専門 医 1 名、日本感染症学会感染症専門医 1 名、日本腎臓学会腎臓専門医 1 名、日本呼吸 器学会呼吸器専門医 2 名、日本肝臓学会肝臓専門医 1 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 5,170.5 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 3,596.8 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の 症例を幅広く経験することができる。
経験できる技術・ 技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきな がら幅広く経験することができる。
経験できる地域医 療・診療連携	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきな がら幅広く経験することができます。また、3 次救命救急センターを有しているた め、内科系においてもエマージェンシーの経験をすることができる。循環器領域に関 しては、心筋梗塞、狭心症、虚血性心疾患などのインターベンション治療、アブレ ーション不整脈治療、消化器領域に関しては緊急内視鏡治療、糖尿病性ケトアシドーシ ス治療、急性腎不全に対する透析治療など、幅広く経験することができる。
学会認定施設(内 科系)	日本内科学会認定教育施設 日本消化器学会専門医認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 など

5 学校法人帝京大学 帝京大学医学部附属溝口病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 身分について・・・学校法人職員、労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署がある。 ・ ハラスメント委員会が整備されている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、 当直室が整備されている。 ・ 敷地内に院内保育所が利用可能である。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プロ グラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内科指導医が 18 名、総合内科専門医が 10 名在籍している。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹 施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催 (2015 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 3 回、感染対策 3 回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的 余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス (2015 年度予定) に定期的に参加するよう専攻医に 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的開催 (2015 年度実績 5 回) し、専攻医に受講を義務付け、そのため

	<p>の時間的余裕を与える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域参加型のカンファレンス（2015年度実績登録医の会1回、循環器連携の会2回、胸部X P読影カンファレンス）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
<p>認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、内分泌、代謝、膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。救急は搬送患者数が多く、週 2 日は専門医が指導に当たる環境にある。血液、感染症、アレルギーに関しては上記診療科で随時診療を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門研修に必要な剖検（2016 年度実績 11 体）を行っている。
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 5 演題）をしている。 ・ 臨床研修に必要な図書室・インターネット環境などを整備している。 ・ 倫理委員会を設置し、定期的で開催している。
<p>指導責任者</p>	<p>馬場 泰尚 【内科専攻医へのメッセージ】 帝京大学医学部附属溝口病院の内科病床は 200 床以上あり、急性期から慢性期まで幅広い研修が可能です。 主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的な診断・治療の流れを経験し、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になるとともに、剖検症例も経験できるものと考えます。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 18 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名、日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 9 名、日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本肝臓学会肝臓専門医 2 名、日本腎臓学会腎臓専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名、ほか</p>
<p>外来・入院 患者数</p>	<p>外来患者 19,672 名 (1ヶ月平均) 入院患者 11,454 名 (1ヶ月平均延数)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
<p>学会認定施設（内科系）</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設 日本消化器学会胃腸科指導施設 日本胆道学会認定指導制度指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門研修施設 ICD/両室ペースメーカー植え込み認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院 日本認知症学会教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設</p>

	日本リウマチ学会教育施設 NST稼働施設認定書 胸部・腹部ステントグラフト実施施設 など
--	---

6 公益社団法人地域医療振興協会 横須賀市立市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）がある。 ・ ハラスメント委員会が横須賀市立市民病院に整備されている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・ 敷地内に院内保育所があり、0歳児からの保育を含め利用可能である。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が10名在籍している（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015年度実績 医療倫理3回、医療安全11回、感染対策4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPCを定期的開催（2015年度実績12回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015年度実績1回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2015年度実績1演題）をしている。Subspeciality関連学会での発表も積極的に行っていく。
指導責任者	小松 和人 【内科専攻医へのメッセージ】 横須賀市立市民病院は、三浦横須賀地区の中核病院として、三浦半島の西南部の医療を担っています。市中病院として、内科全科に専門医が在籍し、豊富なコンメンディーズを経験することができます。また、病病連携や病診連携等を通して、地域医療を学ぶことも目的としています。 単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医10名（うち日本内科学会総合内科専門医6名） 日本消化器病学会消化器専門医2名、日本循環器学会循環器専門医4名、 日本内分泌学会専門医1名、日本糖尿病学会専門医1名、 日本腎臓病学会専門医3名、日本呼吸器学会呼吸器専門医2名、 日本血液学会血液専門医3名、日本神経学会神経内科専門医1名、 日本アレルギー学会専門医（内科）1名、日本リウマチ学会専門医1名、 日本感染症学会専門医1名、日本救急医学会救急科専門医0名、
外来・入院患者数	外来患者 14396名（1ヶ月平均） 入院患者 421名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきな

技能	がら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、 日本消化器病学会専門医制度認定施設、 日本消化器内視鏡学会専門医指導施設、 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、 日本心血管インターベンション学会研修施設、 日本呼吸器学会専門医認定施設、 日本腎臓学会専門医研修施設、 日本透析医学会認定制度教育関連施設、 日本高血圧学会専門医認定施設、 日本血液学会専門医制度血液研修施設、 日本神経学会専門医制度認定准教育施設、 日本脳卒中学会認定研修教育施設、 日本糖尿病学会認定教育施設、 日本リウマチ学会専門医制度認定教育施設、 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設、 日本精神神経学会専門医制度研修施設、 日本がん治療認定医機構認定研修施設、 日本臨床腫瘍学会認定施設 など

7 国際医療福祉大学附属熱海病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 後期臨床研修医として勤務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する組織（安全衛生委員会）がある。 ・ ハラスメント委員会が病院内に設置されている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、当直室が整備されている。 ・ 敷地内に院内保育所があり、夜間保育を含め利用可能である。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が 1 1 名在籍している（下記）。 ・ 研修管理委員会を設置して、病院内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015 年度実績 医療倫理 2 回、医療安全 6 回、感染対策 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）へ定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的で開催（2015 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2018 年度予定）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、血液、膠原病を除く、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 5 演題）をしている。

療・診療連携	なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本消化器病学会専門医制度認定施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設</p> <p>日本消化器学会胃腸科指導施設</p> <p>日本胆道学会認定指導制度指導施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本心血管インターベンション治療学会研修施設</p> <p>日本不整脈心電学会認定不整脈専門研修施設</p> <p>日本神経学会専門医制度准教育施設</p> <p>日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院</p> <p>日本糖尿病学会認定教育施設</p> <p>日本内分泌学会認定教育施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本透析医学会専門医制度教育関連施設</p> <p>日本リウマチ学会教育施設</p> <p>N S T 稼働施設認定書</p> <p>胸部・腹部ステントグラフト実施施設</p> <p>など</p>

9 国家公務員共済組合連合会 横須賀共済病院

<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹型臨床研修病院の指定を受けている。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・横須賀共済病院の専攻医として勤務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署がある。 ・ハラスメント委員会が整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・近傍に院内保育所があり、利用可能である。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 19 名在籍している。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内での研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 25 回、感染対策 24 回、計 50 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 9 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス（2018 年度予定）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>3) 診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・病床数（全体）：747 床、うち内科定床：335 床 ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、膠原病を除く、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症、救急科の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 65 以上の疾患群）につき研修できる。 ・専門研修に必要な剖検（2014 年度実績 15 体、2015 年度実績 16 体）である。
<p>認定基準</p> <p>【整備基準 24】</p> <p>4) 学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研修に必要な図書室、インターネット環境などを整備している。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催している。 ・治験センターが設置している。

	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしている。(2015年度実績7演題)
指導責任者	<p>渡辺 秀樹</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>横須賀共済病院は横須賀・三浦地区の二次医療圏の中核病院として、急性期医療を担っています。特に救急医療に力を入れており、内科専門医研修として十分な症例を経験できます。また、各内科の専門医・指導医が豊富にいるため、内科専門医研修医への指導体制も充実しています。また、地域がん診療連携拠点病院に指定されており、悪性疾患に対する集学的治療・緩和医療・地域医療機関への診療支援などを積極的に行っています。</p> <p>さらに地域医療支援病院の承認を受けており、「かかりつけ医」と「地域医療支援病院」が地域の中で、医療の機能や役割を分担し、より効果的な医療を進めています。このように救急医療からがん診療、そして地域連携と多様な病状・病態の症例を経験可能です。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 19名、日本内科学会総合内科専門医 14名、 日本消化器病学会消化器専門医 4名、日本肝臓学会専門医 3名、 日本循環器学会循環器専門医 5名、日本腎臓病学会専門医 2名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3名、日本血液学会血液専門医 2名、 日本神経学会神経内科専門医 2名、日本救急医学会救急科専門医 1名</p>
外来・入院 患者数	<p>外来患者 13,173名 (1ヶ月平均) 入院患者 763.4名 (1ヶ月平均延数)</p>
経験できる疾患群	<p>研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、地域病院との病連携や診療所(在宅訪問診療施設などを含む)との病診連携も経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定内科専門医教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本腎臓病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本透析医学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会認定医制度教育関連施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度認定施設 日本心血管インターベンション学会研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 など</p>

10 国家公務員共済組合連合会 横浜栄共済病院

<p>認定基準</p> <p>【整備基準24】</p> <p>1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・国家公務員共済組合連合会 横浜栄共済病院の職員として勤務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する医師(産業医)が常勤している。 ・院内にセクシャルハラスメント相談員が男女各1名おり、セクハラに関する相談を
--	--

	日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本透析医学会認定教育関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 腹部ステントグラフト実施施設 胸部ステントグラフト実施施設 日本リウマチ学会教育施設認定 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関認定 日本認知症学会教育施設 日本病理学会研修登録施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 など
--	--

11 国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院の職員として労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する医師（産業医）が常勤している。 ・ 院内にセクシャルハラスメント相談員が男女各1名おり、セクハラに関する相談を受け付けている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・ 敷地内に院内保育所が整備されている。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が15名在籍している（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015年度実績 安全2回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2018年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的で開催（2015年度実績4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015年度実績 金沢区CPC 1回、消化器疾患 内科・外科・病理カンファレンス 2回 神奈川県医療従事者向け緩和ケア研修会 1回 呼吸器疾患医療連携セミナー 2回など 各科および複数科合同で計10回程度）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2015年度実績 1演題）をしている。
指導責任者	小泉晴美 【内科専攻医へのメッセージ】 横浜南共済病院は神奈川県横浜南部医療圏の急性期病院であり、藤沢市民病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を行います。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで、医療安全を重視しつつ、社会的背景・療養環境調

	整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 15 名、日本内科学会総合内科専門医 9 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、 日本腎臓病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、 日本血液学会血液専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、 日本アレルギー学会専門医 (内科) 3 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、 日本感染症学会専門医 0 名、日本救急医学会救急科専門医 4 名、ほか
外来・入院 患者 数	外来患者 11,215 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 1,278 名 (1 ヶ月平均延 数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の 症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・ 技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきな がら幅広く経験することができます。
経験できる地域医 療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携 なども経験できます。
学会認定施設 (内 科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

12 公益社団法人 地域医療振興協会 横須賀市立うわまち病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する健康管理室がある。 ・ ハラスメント委員会が整備されている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、 当直室が整備されている。 ・ 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能である。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プロ グラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が 16 名在籍している (下記)。 ・ 初期および後期研修管理委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理 し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催 (2015 年度実績 医療倫理 1 回、 医療安全 2 回、感染対策 2 回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余 裕を与える。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的に開催（2015年度実績 12回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015年度実績 5回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域のうち、総合内科、呼吸器、消化器、循環器、膠原病および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015年度実績 5 演題）をしている。
指導責任者	岩澤孝昌 【内科専攻医へのメッセージ】 横須賀市立うわまち病院は地域医療機関や救急隊との良好な連携により効率の良い入院治療に重点を置いた高次医療を提供しています。また人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 16 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名 日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本血液学会血液専門医 2 名、 日本リウマチ学会専門医 3 名、日本救急医学会救急科専門医 8 名、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 510.0 名 (1ヶ月平均) 入院患者 334.8 名 (1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定呼吸器専門医研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器病学会専門医修練施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本病理学会研修認定施設 A 日本環境感染学会認定教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設 胸部ステントグラフト実施施設 など

13 社会福祉法人 親善福祉協会 国際親善総合病院

認定基準 【整備基準 24】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
-------------------	--

1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉法人の病院常勤医として労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室、職員課）があり、常勤産業医によるストレスチェックおよびストレス相談（随時）、精神科非常勤医による専門外来が月 1 回ある。 ・ セクハラメント苦情受付担当が、各部署および病院管理部門に配置されており管理部長が統括して対策をとる体制が整備されている（2015 年度現在）。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・ 隣接する同一法人敷地内に院内保育所があり利用可能である。20 時までの時間外保育が可能であり、火曜と金曜日には 24 時間保育を行っている。（2015 年度現在）
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が 10 名在籍している（下記）。 ・ 常設の研修管理委員会内に専門医研修を扱う小委員会を設置する予定である（2017 年度）。内科系の部長全員で内科専攻医研修委員会を設置して毎月一回以上の定例会を通じて、施設内で研修する内科専攻医の研修全体を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る（2017 年度より）。 ・ 医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015 年度実績、医療安全 10 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。医療倫理の講習会は 2016 年度から開催する予定である。 ・ 救急蘇生に関して日本救急医学会の ICLS コース（2015 年度 5 回）および AHA-BLS コース（2015 年度年 4 回）を定期的開催している。JMECC についても 2015 年度中に 1 回開催した。定期的開催し、専攻医には受講を義務付けそのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2018 年度以降予定）に定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 泉区医師会院内学術講演会 4 回、救急カンファレンス 3 回、循環器クリニカルカンファレンス 5 回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、内分泌、代謝、感染、アレルギー、および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 0 演題）を予定している。
指導責任者	清水誠（副院長） 【内科専攻医へのメッセージ】 国際親善総合病院は泉区にある唯一の急性期地域中核病院として、この地域の医療の入り口および大黒柱としての機能を担っています。地域の開業医等の医療機関と密接に連携し、救急分野、がん関連分野、心血管生活習慣病分野、などを重点に総合病院としての機能を果たしていきます。専攻医の皆さんには専門科にとられない研修ができるように配慮します。外来や救急、当直などで受け持った患者を退院まで診ることにより、幅広い疾患を経験するとともに、中規模病院のメリットを生かし指導医間で連絡をとりあい、専攻医のニーズに応じた疾患がタイムリーに経験できるような体制をとります。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 10 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、日本透析医学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、 日本救急医学会救急科専門医 4 名、日本プライマリーケア学会認定指導医 3 名
外来・入院患者数	外来患者 4974 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 2995 名 (1 ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例すべてを経験できる可能

	性がありますが、当院では一部の疾患（血液内科、膠原病）については担当科がないため不十分になることもありえます。緩和ケア内科（緩和ケア病棟）が2016年度からスタートし、今まで以上に（総合内科Ⅰ（一般）、総合内科Ⅲ（腫瘍））について幅広い経験ができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 終末期ケア、緩和ケア、廃用症候群のケア、嚥下障害を含めた栄養管理、リハビリテーションに関する技術・技能についても指導医の指導のほかパラメディカル（専門看護師、認定看護師、NSTチーム、呼吸ケアチーム、理学療法士、言語療法士、作業療法士、社会福祉士ほか）とともに病棟でチーム医療を実践できます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療について、地域医療連携部（看護師専従2名、社会福祉士4名、事務員5名）とともに様々な形の病診・病病連携などを経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会認定制度認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本神経学会認定制度教育関連施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器学会関連施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医関連認定施設 日本病理学会研修認定施設B 日本心身医学会認定医制度研修診療施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本静脈経腸栄養学会実施修練認定教育施設 日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設 日本心血管インターベンション学会研修関連施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本脳ドック学会認定脳ドック施設

14 社団法人日本厚生団 長津田厚生総合病院

認定基準 【整備基準24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本内科学会認定教育関連施設病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 長津田厚生総合病院常勤医師として勤務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（人事総務課職員担当）がある。 ・ ハラスメント委員会が整備されている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・ 病院近傍に保育所があり、利用可能である。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が3名在籍している。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015年度実績、医療安全2回、感染対策2回、医療倫理は開催予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2018年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPCを定期的開催（2016年度実績1回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

	・ 地域参加型のカンファレンス（2016 年度実績 病診、病病連携カンファレンス 2 回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 1 演題発表）。
指導責任者	戸田憲孝 【内科専攻医へのメッセージ】 長津田厚生総合病院は横浜市市北部にあり、急性期一般病棟 170 床、療養病棟 20 床の合計 190 床を有し、地域の医療・保健・福祉を担っている。横浜立大学病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 3 名、日本内科学会総合内科専門医 7 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、日本呼吸器学会専門医 1 名、日本透析医学会専門医 1 名ほか
外来・入院 患者数	外来患者 63940 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 102 名 (1 日平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本内視鏡学会認定施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 など

15 社会福祉法人 恩賜財団 済生会 横浜市東部病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 済生会横浜市東部病院 常勤医師として労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（人事室）がある。 ・ ハラスメント委員会が済生会横浜市東部病院に整備されている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・ 敷地より徒歩 10 分の院内保育所が利用できる。 病児保育、病後児保育は院内で対応している。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が 27 名在籍している（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015 年度実績 医療倫理 3 回、医療安全 3 回、感染対策 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講

	<p>を義務付け、そのための時間的余裕を与える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 51 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2016 年 1 回開催）を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
<p>認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、感染症、救急血液、アレルギー、膠原病の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。</p> <p>専門研修に必要な剖検（2015 年実績 10 体）を行っている。</p>
<p>認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 9 演題）をしている。内科学会関東地方会の幹事病院である。</p> <p>内科学会以外の内科専門分野の学会活動も活発で、海外の学会を含め、年間 100 題以上発表している。専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われている。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>比嘉眞理子</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>済生会横浜市東部病院は、横浜市の中核病院であり、救命救急センターなどを中心とした急性期医療や高度専門医療を中心に提供する病院です。救命救急センターと総合診療センターでは内科医が経験すべき高度な救急疾患から common disease に至るまで豊富な症例を診療しています。地域がん診療連携拠点病院でもあり、がん診療にはサイバーナイフやロボット手術などの先進的な医療機器を備えて最新の医療を行っています。二人主治医制や連携パス導入などの病診連携にも積極的に取り組み地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは、初期臨床研修修了後に横浜市立大学病院の内科系診療科と当院が協力・連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 27 名、日本内科学会総合内科専門医 16 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、 日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、 日本腎臓病学会専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、 日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本肝臓病学会専門医 3 名、 日本救急医学会救急科専門医 6 名。</p>
<p>外来・入院 患者数</p>	<p>外来患者 8,475 名 (1ヶ月平均) 入院患者 722 名 (1ヶ月平均)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができる。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療も経験できる。特に、当院から 5Km 横浜寄りに位置する済生会神奈川県病院は、慢性期医療・緩和ケア・在宅療法を主に担っている。当院は済生会神奈川県病院 内科と医局の一体化を実践しており、人事交流を行っている。済生会神奈川県病院と専攻医の研修において在宅医療・高齢者医療・緩和ケアにおいて連携を取っていく。当院は、病診連携・病病連携についても病院全体で取り組んでおり、専攻医の地域医療連携研修の経験ができる。</p>
<p>学会認定施設 (内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設</p>

	日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本感染症学会連携研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本アレルギー学会認定準教育施設 日本救急医学会指導医指定施設 など
--	---

16 社会福祉法人 恩賜財団 済生会 横浜市南部病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 済生会横浜市南部病院シニアレジデント医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・ ハラスメント委員会が済生会横浜市南部病院に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が 10 名在籍しています（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015 年度実績 医療倫理 1 回（複数回開催）、医療安全 7 回（各複数回開催）、感染対策 11 回（各複数回開催））し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的で開催（2015 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 地域医療連携研修会 6 回など）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 5 演題）を予定しています。
指導責任者	川名一朗 【内科専攻医へのメッセージ】 済生会横浜市南部病院は横浜南部地域の基幹病院であり、急性期病院として専門

	的、先進的医療、救急医療における地域の中心的役割を果たしている。地域医療の充実とともに質の高い内科医の育成のため内科専門医制度プログラムの基幹施設としてまた藤沢市民病院を基幹施設とするプログラムの連携施設として内科専門研修を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 10名、日本内科学会総合内科専門医 4名 日本消化器病学会消化器専門医 5名、日本循環器学会循環器専門医 3名、 日本糖尿病学会専門医 1名、日本腎臓病学会専門医 1名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2名、日本血液学会血液専門医 1名、 日本神経学会神経内科専門医 1名、日本感染症学会専門医 2名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 8,615名(1ヶ月平均) 入院患者 6,506名(1ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器病学会認定施設 日本アレルギー学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本透析医学会教育関連施設 日本血液学会研修施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本環境感染学会教育施設 日本がん治療認定医機構研修施設 日本緩和医療学会研修施設 日本高血圧学会認定施設 日本甲状腺学会専門医施設 日本心血管インターベンション学会研修施設 日本病理学会研修認定施設 B 日本臨床腫瘍学会研修施設 など

17 社会福祉法人 聖隷福祉事業団 聖隷横浜病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型指定病院である。 ・一般症例が豊富であり、経験できる症例数が多い。 ・メンタルハラスメントに適切に対処出来るよう専門のカウンセラーがいる。 ・セクハラ・パワハラについてコンプライアンスホットラインが聖隷事業団にあり、各担当者がいる。 ・敷地内に院内保育所がある。 ・女性医師が働きやすい環境を拡充するため、支援策を設け(時短労働、週4日勤務など)2010年に日本経済新聞より子育て大賞を受賞した。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラム環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が16名在籍している(下記)。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催(2014年度実績 倫理委員会3回、安全管理12回、感染対策12回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPCを定期的で開催(2014年度実績4回、2015年度6回予定)し、専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス(2014年度実績3回うち内科系発表2件)を開催

	し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、血液・神経・膠原病 ・感染症を除く総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、救急の分野で定期的 に専門研修が可能な症例数を有している。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演目以上の学会発表（2014 年 度実績 1 演題）をしている。
指導責任者	神谷 雄二 【内科専攻医へのメッセージ】 聖隷横浜病院は、横浜市保土ヶ谷区にあり、横浜旧市街地の約 50 万人のエリアを医 療圏にしています。キリスト教精神に基づく隣人愛、安全で良質な医療の提供、地 域貢献の継続の 3 項目を理念とし、急性期医療を中心とした地域密着型の中規模病 院（急性期一般病棟 250 床、地域包括ケア病棟 50 床の計 300 床）として横浜市の救 急拠点病院にも認定されています。23 の標榜診療科があり、各科毎に専門的な医療 を提供していますが、各科間のコミュニケーションは円滑で研修環境としては非常 に充実しています。横浜市立大学等を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連 携施設として、内科専門研修と行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 16 名、日本内科学会総合内科専門医 8 名、 日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本超音波医学会認定超音波専門医 1 名、日 本消化器内視鏡学会消化器内視鏡指導医 2 名、日本消化管学会 胃腸科指導医 1 名、 日本循環器学会循環器専門医 6 名、日本心血管インターベンション治療学会認定医 3 名、日本呼吸器学会専門医 2 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 2 名、日本 アレルギー学会専門医 1 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名、日本肝臓学 会認定肝臓専門医 1 名、日本腎臓学会腎臓専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門 医 2 名、日本糖尿病学会専門医 2 名
外来・入院	外来患者 6,874 名(1 ヶ月平均延数) 入院患者 4,437 名(1 ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	・研修手帳にある 10 領域・51 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる 技術・技能	・上記 51 疾患群に関する技術・技能を経験することができます。
経験できる 地域医療・ 診療連携	・横浜市の将来像である超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、 病診、病病連携などを経験できます。当院には地域包括ケア病棟があり、地域包括 ケアシステムの中の病院の役割について経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本感染症学会連携研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本アレルギー学会認定準教育施設

18 茅ヶ崎市立病院

認定基準	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
------	-----------------------

【整備基準 24】 1)専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・茅ヶ崎市非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（職員課健康衛生担当）があります。 ・セクシュアル・ハラスメント苦情処理委員会が茅ヶ崎市役所に整備されています。 ・2016年度にハラスメント対策委員会に拡大整備予定です。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 13 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015年度実績 医療倫理 1回、医療安全 2回、感染対策 3回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的開催（2015年度実績 5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2015年度実績 茅ヶ崎内科医会症例検討会 3回、救急症例検討会 3回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、内分泌、代謝、感染、アレルギー、膠原病および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015年度実績 6 演題）を予定しています。
指導責任者	佐藤 忍 【内科専攻医へのメッセージ】 茅ヶ崎市立病院は神奈川県湘南東部医療圏の中心的な急性期病院であり、藤沢市民病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本内分泌学会内分泌・代謝専門医 2 名、 日本腎臓病学会専門医 2 名、日本透析医学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、 日本肝臓学会認定肝臓専門医 2 名 、日本アレルギー学会専門医（内科） 2 名、 日本リウマチ学会専門医 1 名、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 8,206 名（1ヶ月平均） 入院患者 285 名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

	日本呼吸器学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 <u>日本透析医学会専門医制度教育関連施設</u> 日本神経学会教育関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 など
--	---

19 地方独立行政法人 神奈川県立病院機構 神奈川県立足柄上病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 神奈川県立病院機構医師として労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署がある。 ・ ハラスメント委員会（機構本部コンプライアンス室が扱う）が整備されている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・ 院内保育所があり、利用可能である。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	指導医が8名在籍している（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015年度実績 医療倫理0回（2016年度1回）、医療安全23回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2018年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的で開催（2015年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015年度実績3回）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・ 臨床研究に必要な図書室などを整備している。 ・ 倫理委員会を設置し、定期的に参加（2015年度実績10回）している。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に参加研究審査会を開催（2015年度実績5回）している。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2014年度実績1演題だが、関連学会にその他に3演題を発表）をしている。

指導責任者	加藤佳央 【内科専攻医へのメッセージ】 神奈川県立足柄上病院は、神奈川県立病院機構の5病院唯一の総合病院として、機構の他病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムでは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科と協力病院とが連携して、内科医を養成するものです。また、高度の診断能力を有し、患者および患者家族のニーズを満たす適切なマネジメントを遂行可能で医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的としています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医8名、日本内科学会総合内科専門医7名 日本消化器病学会消化器専門医5名、日本循環器学会循環器専門医1名、日本神経学会神経内科専門医1名、日本肝臓学会専門医1名ほか
外来・入院患者数	外来患者 4768名(1ヶ月平均) 入院患者 3260名(1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医教育関連施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本がん治療認定機構認定研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本アレルギー学会教育施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会認定関連施設 日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療後期研修施設など

20 地方独立行政法人 神奈川県立病院機構 神奈川県立がんセンター

認定基準 【整備基準24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 神奈川県立病院機構任期付常勤医師として労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課)がある。 ・ 監査・コンプライアンス室が神奈川県立病院機構本部に整備されている。 ・ 女性専門医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・ 敷地内に院内保育所があり、女性専攻医は利用可能である。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が14名在籍している(下記)。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催(2015年度実績 医療倫理1回、医療安全2回(各複数回開催)、感染対策2回(各複数回開催))し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス(2018年度予定)を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。

	<ul style="list-style-type: none"> ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 11 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 神奈川県肺癌呼吸器研究会 11 回、横浜西部消化器カンファレンス 2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、呼吸器、血液の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。総合内科、循環器、感染症の分野はある程度の研修が可能である。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 2 演題）をしている。
指導責任者	金森平和 【内科専攻医へのメッセージ】 神奈川県立がんセンターは都道府県がん診療連携拠点病院であり、連携施設としてがんの基礎的、専門的医療を研修できます。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	内科学会指導医 14 名、総合内科専門医 9 名、消化器病学会専門医 10 名、循環器学会専門医 2 名、呼吸器学会専門医 5 名、血液学会専門医 8 名、肝臓学会専門医 3 名、アレルギー学会専門医 1 名
外来・入院 患者数	外来患者 6,987 名（1 ヶ月平均） 入院患者 427 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	13 領域のうち、がん専門病院として 6 領域 22 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	がんの急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応したがん患者の診断、治療、緩和ケア、終末期医療などを通じて、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育特殊病院 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本胆道学会指導医制度指導施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

21 地方独立行政法人 神奈川県立病院機構 神奈川県立循環器呼吸器病センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・神奈川県立病院機構任期付常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・監査・コンプライアンス室が神奈川県立病院機構本部に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準	・指導医が 14 名在籍しています（下記）。

など

22 独立行政法人労働者健康福祉機構 横浜労災病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・労働者健康安全機構嘱託職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルヘルスに適切に対処する部署（総務課）、産業医がおります。 ・ハラスメントについては、相談員（男女各1名）を置き、職員の相談に対応しており、必要に応じに職員相談委員会を開催する体制が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室を整備しています。 ・敷地内に院内保育所を整備しています。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が32名在籍しています。 ・医師臨床研修管理委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催し、専攻医にも受講を義務付けます。 ・CPCを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型カンファレンスや各診療科の主催するカンファレンスを定期的で開催しており、専攻医に特定数以上の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で5演題の学会発表をしています。
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】当院のすべての内科専門領域で専門医の指導のもと多くの症例と最新の診療を経験することができます。また院内でお行われている臨床研究に参画することでリサーチマインドの育成も行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医23名、日本内科学会専門医13名 日本消化器病学会専門医3名、日本消化器内視鏡学会専門医3名、日本循環器学会専門医7名、日本糖尿病学会専門医4名、 日本肝臓学会専門医2名、日本呼吸器学会専門医4名、 日本腎臓学会専門医2名、日本内分泌学会専門医4名、日本血液学会専門医4名、日本神経学会専門医4名 ほか
外来・入院患者数	外来患者15,708名（内科系診療科のみの1ヶ月平均） 入院患者6,487名（内科系診療科のみの1ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例をすべて経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる医療・地域医療・診療連携	急性期医療、最新医療、臨床研究を体験しつつ内科専門医に求められる患者中心の標準治療を習得し、地域医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定教育施設教育病院 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設

	日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本禁煙学会教育認定施設 日本神経学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定脳卒中教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本血液学会血液研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー専門医教育施設 日本がん治療認定研修施設 日本腫瘍学会認定研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本心身医学会研修診療施設 日本心療内科学会研修施設（基幹研修施設） 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本病態栄養学会認定栄養管理・NST 実施施設 日本肝臓学会認定施設
--	---

23 独立行政法人 国立病院機構 相模原病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 国立病院機構のシニアレジデントとして労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する窓口がある。 ・ 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能である。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内科指導医が 16 名在籍している（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催している（2015 年度実績 医療倫理に関しては研究センター主導で CITI Japan の受講を促し、倫理委員会についても月一回程度定期的に行っている。医療安全講習、感染対策に関しても年 2 回以上の開催をしている）。専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的で開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、呼吸器、神経内科、アレルギー、膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。また、総合内科に関しては専門各科が協力し応需をしており、内科研修内に経験可能である。感染症については、症例は十分数存在し、また救急部はないが一般二次内科救急を輪番で経験することにより、これらの分野に対する研鑽を積むことが可能である。
認定基準	日本内科学会地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）

【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	をしている。
指導責任者	森田有紀子 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、相模原地域の第三番目の規模の二次救急病院であり、地域支援病院として同地域の診療を支える一方で、免疫異常（リウマチ、アレルギー）の我が国の基幹施設として臨床研究センターを併設した高度専門施設としての役割が期待されています。それらの事情から、当施設において総合内科専門医を教育、輩出し、またサブスペシャリティの専門領域の研鑽を積むことができる施設として、内科教育の場を提供し、優れた臨床医の育成に努めています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 16 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名 日本消化器病学会消化器専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、 日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名、 日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本透析学会専門医 1 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）7 名、日本リウマチ学会専門医 6 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 7214 名（1 ヶ月平均） 入院患者 318 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群、200 症例のうち、189 症例を経験することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本神経学会専門医認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 など

24 独立行政法人 国立病院機構 横浜医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 横浜市立大学レジデントとして労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理委員会、産業医）がある。
--------------------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメント委員会が整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・敷地内に院内保育所があり、夜間保育を含め利用可能である。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 12 名在籍している（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う（2015 年度実績 医療倫理 2 回、医療安全 4 回、感染対策 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に行う（2015 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 2 回）を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、血液内科を除く、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間計 1 演題以上の学会発表（2014 年度実績 5 演題）をしている。
指導責任者	岩出和徳 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は横浜市南西部地域中核病院として、同地域や近隣の藤沢市、鎌倉市の医療機関と連携して地域医療のなかで、急性期病院の機能を担って診療をしています。内科系診療科はそれぞれの分野で質の高い診療を行っており、院内他診療科と連携し、総合的な診療を行っています。また医療安全、院内感染予防にも力を注いでいます。臨床研究部を擁しており、臨床治験や臨床研究を多数行っており、特に内科分野では高い業績があります。将来の日本の医療を担える人材を育成することができる病院であると自負しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 12 名、日本内科学会総合内科専門医 8 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、 日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、 日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、 日本神経学会神経内科専門医 2 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）1 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、 日本救急医学会救急科専門医 6 名、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 5455 名（1 ヶ月平均） 入院患者 383.4 名（1 ヶ月新規入院数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 11 領域、63 疾患群の症例を経験することができます。ただし感染症領域の 4 疾患群はすべての内科系診療科で経験することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域の診療所、病院、大学病院、施設などと連携診療を行っており、また在宅医療との連携も強化しております。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本内科学会認定専門医研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本糖尿病学会教育関連施設

	日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本透析医学会会員施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 ICD/両心室ペーシング植え込み認定施設 日本神経学会専門医制度認定准教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本認知症学会教育施設 など
--	--

25 独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 独立行政法人地域医療推進機構任期付常勤医師として労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生委員担当）がある。 ・ 研修センターが独立行政法人地域医療推進機構本部に整備されている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されている。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が9名在籍している（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015年度実績 医療倫理12回、医療安全9回、感染対策7回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス開催を予定している。専攻医に受講の時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的で開催（2015年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 地域参加型のカンファレンス（診療科別に複数回予定）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、アレルギー、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2015年度実績日本内科学会総会 1演題）をしている。
指導責任者	大岩功治 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は横浜市中区の中心地に位置する総合病院です。特徴は地域に密着した医療を提供する独立行政法人 JCHO グループ 57 病院一つとして、スケールメリットによる地域医療の向上を図り、医療介護連携ともなう地域包括ケアシステムの中核となる病院を目指しています。長年、横浜市救急拠点 B 病院として日々の救急医療を中心に地域の急性期医療の一端を担ってきました。さらに平成 26 年より地域包括ケアシステムとして、地域包括ケア病棟、在宅医療の後方支援となる在宅療養後方支援病院をスタートさせて、地域医療の拠点となる病院として総合診療的医療にも力をいれていま

	す。また、増加する外国人患者に対応するため、全国に10施設ある医療通訳拠点病院の1つに認定されており、隣接する中華街などの外国人患者に対応し、国際感覚のある医師の育成にも力を入れています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医9名、日本内科学会総合内科専門医3名 日本内科学会認定医18名、日本内科学会総合内科専門医3名、日本消化器病学会消化器専門医6名、日本循環器学会循環器専門医4名、日本糖尿病学会専門医1名、日本腎臓病学会専門医2名、日本透析医学会専門医3名、日本呼吸器学会専門医1名、日本アレルギー学会専門医(内科)3名、日本リウマチ学会専門医2名、日本消化器内視鏡学会専門医2名、日本がん治療認定医専門医3名、日本肝臓学会専門医2名、日本心血管インターベンション治療学会専門医1名、日本プライマリケア連合学会認定医1名、日本呼吸器内視鏡学会専門医1名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 4577名(1ヶ月平均延数) 入院患者 3705名(1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携、さらに近年経験が必要な在宅医療に対する研修なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本急性血液浄化学会指定施設 日本高血圧学会認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本脳卒中学会研修教育病院 日本総合健診医学会・日本人間ドック学会研修施設 日本消化器がん検診学会指導施設 日本がん治療認定医機構研修施設

26 独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜保土ヶ谷中央病院

認定基準 【整備基準24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度協力型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ JCHO 病院常勤医として労務環境が保障されている。 ・ 専攻医ひとりひとりに専用の机、本棚、ロッカー、インターネットに接続された端末が整備されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署(健康管理科・安全衛生委員会)がある。 ・ 倫理委員会が整備されている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室付き当直室が整備されている。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能である。 ・ 院内保育所は、小児科外来と密に連携している。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が7名在籍している(下記)。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催(2015年度実績 医療倫理1回、医療安全2回、感染対策2回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間

	<p>的余裕を与える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的に開催（2015年度実績1回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015年度実 症例検討会2回、循環器セミナー2回、消化器病セミナー1回、計5回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、アレルギー、膠原病、感染症および総合診療の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2015年度実績1演題）をしている。 専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、学会参加費の補助制度がある。和文・英文論文の筆頭著者としての執筆をサポートする体制がある。
指導責任者	川井 孝子 【内科専攻医へのメッセージ】 本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。当院は、地域医療、高齢者医療、コモンディージーズの診療などに強みがあります。また、患者さん、患者さんの家族、医療スタッフとのコミュニケーション力を高め、問題解決能力を引き出すサポートをする体制を整えています。全国57病院からなるJCHO病院組織の一員であることから、他のJCHO病院との相互連携もすすめていく予定です。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医9名、日本内科学会総合内科専門医5名 日本消化器病学会消化器専門医3名、日本循環器学会循環器専門医2名、 日本内分泌学会専門医1名、日本糖尿病学会専門医1名、日本腎臓病学会専門医1名、 日本呼吸器学会専門医1名、日本アレルギー学会専門医(内科)1名、日本リウマチ学会専門医1名、日本プライマリ・ケア連合学会指導医5名、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 5,700名(1ヶ月平均) 入院患者 3,000名(1ヶ月平均延数)
病床	100床
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある13領域のうち9領域の症例を経験することができます。 週1回内科合同カンファレンスを行っており、複数の領域を横断的に診療することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。 多職種カンファレンスを積極的に行っており、チーム医療の研修を行えます。 訪問看護ステーションを併設しており、急性期医療から慢性期、在宅医療までをシームレスに研修することができます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本透析学会認定教育関連施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器病学会認定専門医制度施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 (以上ホームページ掲載順)

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・医局と同じフロアに図書室・インターネット環境があり、電子ジャーナル・各種データベースなどへアクセスできます。 ・秦野赤十字病院後期臨床研修医として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスならびにハラスメントに対処する職員がおり、常時相談を受け付けています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室・シャワー室・当直室・休憩室が整備されています。 ・病院内に保育所があり、病児保育補助も行っています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会指導医が 14 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 医療倫理 6 回、医療安全 12 回、感染対策 2 回）しています。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（医師会と合同主催の講演会や研究会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野（総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急）で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。 ・各専門科においても内科系各学会において数多くの学会発表を行っております。 ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。
指導責任者	<p>澤田 玲民</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>当院は地域医療支援病院であり、DPC・電子カルテが導入され、7:1 看護体制をとっています。総合病院として多くの専門医を擁し、各種学会の認定施設になっています。たとえ忙しくハードでも、実り多い研修を希望する方に最適です。</p>
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 14 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名 日本人間ドック学会専門医 1 名、日本消化器病学会消化器専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、日本血液学会血液専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本透析学会専門医 1 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 11,375 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 6,654 名 (1 ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域医療を担う病院として、救急医療や継続的な医療、高齢者医療や緩和医療を赤十字理念に基づいて実施しています。
学会認定施設 (内科系)	<ul style="list-style-type: none"> 日本内科学会認定医制度教育病院 日本血液学会認定研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定制度認定施設

	日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本認知症学会教育施設 など
--	---

28 日本赤十字社東京都支部 大森赤十字病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修基幹型研修指定病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・大森赤十字病院 常勤医師として労務環境が保障されている。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課）がある。 ・ハラスメント防止に対する規程及び委員会が整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・保育所の利用を必要とする場合は特段の配慮をする。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 14 名在籍している（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015 年度実績 医療倫理 0 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 16 回）を定期的開催し、専攻医に受講を促し、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 12 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催（2015 年度実績 5 回）しています。 ・臨床研究部門を設置し、臨床研究発表会や講演会を開催しています。（2015 年度実績 各 1 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 内科系学会 21 演題、日本内科学会 2 演題）をしています。
指導責任者	後藤 亨 【内科専攻医へのメッセージ】 大森赤十字病院は地域に密着した急性期病院で、近隣の施設と連携した内科専門研修を行います。いわゆる common disease はもちろん、重篤な疾患でも地域で治療を完結できるようにレベルの高い診療を目指しております。当院の特徴として他職種とのチーム医療を基本としており、医師はじめ多くのスタッフでチーム大森を形成しています。私たちは、専攻医の皆様が、「将来当院で研修を行ったことを自慢できるような病院」を目指して日々研鑽を積んでいます。是非、私たちのチームの一員になってともに学んでいきましょう。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 14 名、日本内科学会総合内科専門医 13 名 日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本肝臓学会専門医 1 名、

	日本消化器内視鏡学会専門医 6 名、超音波医学会専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本心血管インターベンション学会専門医 1 名、日本老年医学会認定専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本血液学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓学会専門医 3 名、日本透析医学会専門医 3 名、日本高血圧学会高血圧専門医 1 名、日本神経学会専門医 6 名、日本頭痛学会専門医 1 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 16,922 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 9,553 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会教育病院 日本腎臓学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本神経学会教育施設 日本老年医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本高血圧学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会関連施設 日本透析医学会教育関連施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本超音波医学会専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 など

29 平塚市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 常勤医師として採用され、安定した身分保障および労務環境が整えられています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署が平塚市役所内にあります。 ・ ハラスメント委員会が平塚市役所内に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、週 2 日は 24 時間利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内科学会指導医が 12 名在籍しています。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催 (2015 年度実績 医療倫理

	<p>1回、医療安全10回、感染対策14回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をとります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修施設群合同カンファレンス(2018年度予定)を予定し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をとります。 ・CPCを定期的で開催(2015年度実績5回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をとります。 ・地域参加型のカンファレンス(2015年度実績9回)を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をとります。
<p>認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、感染症および救急の分野で専門研修が可能な症例数を診療しています。</p> <p>また、血液、リウマチ膠原病・アレルギーについても非常勤医師の指導の下、外来・入院診療を行っています</p>
<p>認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表(2015年度実績3演題)をしています。</p>
<p>指導責任者</p>	<p>谷口礼央 【内科専攻医へのメッセージ】 横浜駅からJRで30分、湘南西部の風光明媚な平塚市の文教地区に位置する地域中核急性期病院で、専攻医は公立病院常勤医師として安定した身分が保証されています。</p> <p>高度急性期、急性期だけでなく回復期の患者さんや多くの疾患を抱える高齢者まで、市民病院ならではの幅広い患者層を対象に多くの疾患のさまざまな時点での診療を経験することが出来ます。</p> <p>平成28年に新館がオープンし、ゆったりとした外来・病棟、最新の設備を備えた救命病床やICU/CCU、外来化学療法室・透析室・手術室、広いリハビリ室などが新館内に設置されました。現在本館も改装中です。また320列CTやIVR-CTなどの先進機器に加えて、新館開設に伴い最新鋭のリナック(Varian社製 True Beam)も設置され、県指定がん連携拠点病院として高度ながん診療体制が整えられています。</p> <p>内科の広範な診療を支えるため、主な領域には常勤指導医がおり、また血液・リウマチ内科等は大学派遣の非常勤医師の指導を受けられます。放射線科や外科系診療科のスタッフも充実しており、救急医療に関しては地域の二次救急輪番制の中心病院として高度急性期疾患にも対応できるよう、ER専門医も配置され指導を受けることが出来ます。</p> <p>さまざまなカテゴリーの内科疾患を1症例ずつ丁寧にしっかりと診療できる、充実した専門医研修を目指しています。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医12名、日本内科学会総合内科専門医7名 日本消化器病学会消化器専門医4名、日本循環器学会循環器専門医2名、 日本内分泌学会専門医2名、日本糖尿病学会専門医1名、 日本腎臓病学会専門医2名、日本呼吸器学会呼吸器専門医2名、 日本血液学会血液専門医0名、日本神経学会神経内科専門医1名、 日本アレルギー学会専門医1名、日本リウマチ学会専門医0名、 日本感染症学会専門医0名、日本救急医学会救急科専門医2名、ほか</p>
<p>外来・入院 患者数</p>	<p>外来患者 6297名(1ヶ月平均) 入院患者 255名(1ヶ月平均延数)</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>研修手帳(疾患群項目表)にある13領域、70疾患群のうち、かなりの領域・疾患群の症例を経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医療・診療連携</p>	<p>高度急性期、急性期医療のほか、回復期やさまざまな疾患を抱えた高齢者医療、さらには高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携が経験できます。</p>
<p>学会認定施設(内科系)</p>	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設</p>

日本呼吸器学会認定施設
 日本腎臓学会研修施設
 日本消化器内視鏡学会認定指導施設
 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
 日本肝臓学会認定施設
 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設
 日本透析医学会認定医制度認定施設
 日本神経学会専門医制度認定教育施設
 日本脳卒中学会認定研修教育病院
 日本呼吸器内視鏡学会認定施設
 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設
 日本がん治療認定医機構認定研修施設
 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設
 日本救急医学会救急科専門医指定施設
 日本医学放射線学会放射線科専門医修練施設
 日本 IVR 学会専門医修練施設
 日本心血管インターベンション治療学会研修施設
 日本脳神経学会専門医研修施設
 厚生労働省指定臨床研修病院
 など

30 藤沢市民病院

<p>認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 藤沢市非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ ハラスメント委員会が藤沢市役所に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医は 17 名在籍しています（下記）。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）；専門医研修プログラム準備委員会から 2017 年度中に移行予定）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター（2017 年度予定）を設置します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 11 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2018 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（内科体験学習集談会、湘南地域救急医療合同カンファレンス、藤沢市内科医会循環器研究会、藤沢市内科医会呼吸器研究会、消化器病症例検討会；2015 年度実績 30 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2015 年度開催実績 1 回：受講者 10 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センター（2017 年度予定）が対応します。 ・ 特別連携施設（湘南ホスピタル）の専門研修では、電話や週 1 回の藤沢市民病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。

認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 専門研修に必要な剖検（2016 年度 8 体（2016 年 11 月 14 日現在）、2015 年度 12 体、2014 年度 6 体、2013 年度 10 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> 臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 倫理委員会を設置し、定期的開催（2015 年度実績 12 回）しています。 治験管理室を設置し、定期的受託研究審査会を開催（2015 年度実績 12 回）しています。 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	<p>常田康夫</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>藤沢市民病院は、神奈川県湘南東部医療圏の中心的な急性期病院であり、湘南東部医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。</p> <p>主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。</p>
指導医数 （常勤医）	<p>日本内科学会指導医 17 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名</p> <p>日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、</p> <p>日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 6 名、</p> <p>日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 2 名、</p> <p>日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医（内科）3 名、</p> <p>日本リウマチ学会専門医 1 名、日本感染症学会専門医 2 名、</p> <p>日本救急医学会救急科専門医 4 名、ほか</p>
外来・入院 患者数	<p>外来患者 12,819 名（1 ヶ月平均）</p> <p>入院患者 489 名（1 ヶ月平均）</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設（内科系）	<p>日本内科学会認定医制度教育病院</p> <p>日本老年医学会認定施設</p> <p>日本消化器病学会認定施設</p> <p>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</p> <p>日本呼吸器学会認定施設</p> <p>日本血液学会認定血液研修施設</p> <p>日本腎臓学会研修施設</p> <p>日本リウマチ学会教育施設</p> <p>日本透析医学会専門医制度認定施設</p> <p>日本神経学会教育関連施設</p> <p>日本アレルギー学会認定教育施設</p> <p>日本救急医学会救急科専門医指定施設</p> <p>日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設</p> <p>日本臨床腫瘍学会認定研修施設</p> <p>日本消化器内視鏡学会指導施設</p>

	日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本肝臓学会教育関連施設 など
--	--

31 大和市立病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・大和市常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課総務調整担当）があります。 ・ハラスメント委員会が大和市役所に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地に近接した病院の保育所と夜間院内保育室がありどちらも利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が 11 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2015 年度実績 医療倫理 1 回（複数回開催）、医療安全 2 回（各複数回開催）、感染対策 3 回（各複数回開催））し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）に定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 開放病床症例検討会 4 回、大和リウマチ懇話会 2 回）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、アレルギー、膠原病、感染症、および、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	松本裕 【内科専攻医へのメッセージ】 大和市立病院は神奈川県の中核地域の中心的な急性期病院であり、藤沢市民病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を行います。主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで、医療安全を重視しつつ、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 11 名、日本内科学会総合内科専門医 9 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、 日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、 日本血液学会血液専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医（内科）1 名、 日本リウマチ学会専門医 1 名、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 6,059 名（1 ヶ月平均） 入院患者 264 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会教育関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会教育関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 など

32 横浜市立市民病院

認定基準 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・横浜市非常勤特別職々員として労務環境が保障されています。 ・職員の健康管理・福利厚生を担当する部署（総務課職員係）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用が可能です。
認定基準 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・新基準による指導医が34名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015年度実績 医療安全11回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（2015年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し（2015年度実績 横浜西部肝炎セミナー2回、肺癌読影会10回等）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、内分泌を除く総合内科、消化器、循環器、呼吸器、腎臓、神経、膠原病、代謝、血液、感染症、アレルギーおよび救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2015年度実績8演題）をしています。 ・各専門分野の学会でも毎年多数の発表を行っているとともに、英文・和文論文の筆頭著者として執筆する機会あがり、学術的な指導を受けることができます。 ・臨床試験管理室を設置し、定期的に受託研究審査委員会を開催しています（2015年度実績8回）。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています（2015年度実績11回）。 ・利益相反委員会（COI委員会）を設置し、定期的に開催しています（2015年度実績3回）。
指導責任者	小松 弘一（副病院長） 【内科専攻医へのメッセージ】

	<p>自他ともに認める高度急性期医療を担っている病院で、救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院、第一種感染症指定医療機関、国の地域周産期母子医療センター、地域医療支援病院に指定されているなど、日常よく遭遇する common disease から高度な医療を必要とする重症患者や難治性疾患まで十分な経験を積むことができます。質の高い内科医となるだけでなく、医療安全を重視し、地域の中核病院として病診連携、病病連携を経験して患者さんの社会的背景、療養環境に配慮した医療を行うことができる内科医を育成することを目指しています。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 34 名 日本内科学会総合内科専門医 13 名 日本消化器病学会消化器専門医 11 名 日本肝臓学会肝臓専門医 2 名 日本循環器学会循環器専門医 4 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名 日本血液学会血液専門医 2 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名 日本腎臓学会腎臓専門医 4 名 日本透析医学会透析専門医 3 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 4 名 日本感染症学会感染症専門医 2 名 日本緩和医療学会緩和専門医 1 名</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者 9,399 名 (1 ヶ月平均) 新入院患 596 名 (1 ヶ月平均)</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本感染症学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓病学会研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設 日本透析医学会認定医制度専門医修練施設 日本血液学会認定研修施設 日本骨髄移植推進財団認定施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本神経学会専門医研修施設 日本神経学会専門医制度認定準教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設</p>

	ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設
--	--

33 横浜市立脳卒中・神経脊椎センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 診療医として労務環境が保障されている。 ・ 女性専攻医も安心して勤務できるよう個室が完備され、当直室も整備されている。 ・ メンタルストレスに対して相談機能がある。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が 10 名在籍している。 ・ 医療安全、感染防止対策に係る研修会を定期的に開催（2015 年度実績 39 回）し、受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 1 回）を定期的に開催予定。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表予定。
指導責任者	城倉健 【内科専攻医へのメッセージ】 人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 4 名、日本内科学会総合内科専門医 3 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 3790 名 (1 ヶ月平均) 入院患者 2466 名 (1 ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域 70 疾患群のほとんどの症例が経験することができます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	高齢者の QOL を高めるため福祉施設などや診療所とも連携を推進し地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設	日本神経学会 専門医制度教育施設 日本脳神経外科学会 専門医訓練場所 (認定施設の細則 C に適合する訓練場所) 日本リハビリテーション医学会 研修施設 日本脳卒中学会 専門医認定制度 研修教育病院 日本高血圧学会専門医認定施設 日本内科学会認定教育関連施設 日本脳ドック学会 認定施設 日本整形外科学会 専門医研修施設 日本麻酔科学会 麻酔科認定病院

34 NTT 東日本関東病院

認定基準 【整備基準 23】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境 (24H間使用可能) がある。
-------------------	--

1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ HSR・コンプライアンス委員会が院内に整備されている他、NTTグループ企業倫理委員会やヘルプラインの社外窓口も整備されている。 ・ 育児と子育て支援等の充実を図れる育児休職制度や育児のための短時間勤務制度が整備されている。 ・ 敷地内に独身寮、社宅を保有しており使用可能である。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が 16 名在籍、専門医が 40 名在籍している（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 総合臨床懇話会・医療安全講演会・感染対策講演会を定期的開催（2015 年度実績：医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える予定である。 ・ CPC を定期的開催（2015 年度実績：テスト 11 回/カンファボード 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績：2 回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラムに示す内科領域全 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 7 演題）をしている。
指導責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 松橋信行（消化器内科部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 <p>NTT 東日本関東病院は東京都区南部（品川区）にある総合病院であり、人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に横浜市立大学附属病院の内科系診療科と協力病院である当院が連携して、質の高い内科医を育成するものです。当院としては単に優れた内科医を養成するだけでなく、JCI 認定病院として医療安全・感染対策を重視しており、患者本位の医療サービスを通じて、医学の進歩並びに日本の医療を担える医師の育成に貢献したいと考えております。</p>
指導医数 (常勤医)	<p>日本内科学会指導医 6 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名 日本消化器病学会消化器専門医 11 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本内分泌学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、 日本腎臓病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、 日本血液学会血液専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、 日本肝臓学会肝臓専門医 3 名、日本救急医学会救急科専門医 1 名、ほか</p>
外来・入院患者数	<p>外来患者： 内科系 13,612（2015/1 ヵ月平均） 入院患者： 内科系 5,034（2015/1 ヵ月平均延数） 外来患者： 内科系 13,187（2016/1 ヵ月平均） 入院患者： 内科系 5,213（2016/1 ヵ月平均延数）</p>
経験できる疾患群	<p>きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができる。</p>
経験できる技術・技能	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。</p>
経験できる地域医療・診療連携	<p>急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できる。</p>
学会認定施設 (内科系)	<p>日本アレルギー学会（小児、呼吸器）教育施設、 日本肝臓学会認定施設、 日本緩和医療学会研修施設、</p>

	<p>日本血液学会研修施設、 日本血管インターベンション学会研修関連施設、 日本高血圧学会専門医認定施設、 日本呼吸器学会認定施設、 日本呼吸器内視鏡学会認定施設、 日本循環器学会専門医研修施設、 日本消化器内視鏡学会指導施設、 日本消化器病学会認定施設、 日本神経学会教育施設、 日本肝臓学会研修施設、 日本大腸肛門病学会専門医修練施設、 日本透析療法学会認定施設、 日本糖尿病学会認定教育施設、 日本内科学会認定医制度教育施設、 日本内分泌学会認定教育施設、 日本脳卒中学会研修教育施設、 腹部ステントグラフト実施施設、 胸部ステントグラフト実施施設、 日本リウマチ学会教育施設、 日本心身医学会研修診療施設、 日本総合病院精神医学会専門医研修施設、 日本透析医学会認定施設、 日本消化管学会胃腸科指導施設、 日本胆道学会指導施設 など</p>
--	--

35 川崎医療生活協同組合 川崎協同病院

<p>認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 川崎協同病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ ハラスメントに関する規定に基づき、相談や苦情窓口（所属管理者・本部総務部）が設置され、迅速かつ適切な対応がされています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内あるいは病院近傍に院内保育所があり、利用可能です。
<p>認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導医が5名在籍しています（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2015年度実績 医療倫理 2回、医療安全 2回（各複数回開催）、感染対策 2回（各複数回開催））し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2017年度予定）を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的開催（2015年度実績 10回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015年度実績 病診、病病連携カンファレンス 2回）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
<p>認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境</p>	<p>カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器、神経、腎臓、代謝および救急の分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。</p>
<p>認定基準</p>	<p>日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 4 演題以上の学会発表（2015 年度実績</p>

【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	3 演題) を予定しています。
指導責任者	田中 久善 【内科専攻医へのメッセージ】 川崎医療生協は川崎協同病院をセンター病院に7つの診療所や老健施設等を有し、神奈川県内の協力病院と連携して人材の育成を行っています。プライマリケアを中心とした適切な医療の提供はもちろん、地域や行政・福祉とも連携したヘルスプロモーションを展開しています。また、法人として介護事業や在宅医療にも力をいれて取り組んでおり、希望により訪問診療も経験できます。病院内では外部講師を招いた勉強会も定期的に行っています。後期研修では、たくさんの症例を経験して専門領域の技術を磨く一方で、ジェネラリストとしての総合性に磨きをかけることが重要と考え、スペシャリティとジェネラリティの一方に偏ることなく、両者を同時に追求し続けることのできる医師養成に取り組んでいます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 3 名, 日本消化器病学会消化器専門医 1 名, 日本循環器学会循環器専門医 1 名, 日本神経学会神経内科専門医 1 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 3,252 名 (1 か月平均) 入院患者 238 名 (1 日平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある8領域, 27 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・ 技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能7領域を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医 療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会教育施設, 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設, 日本プライマリケア学会認定医研修施設, 日本消化器病学会教育関連施設 など

36 藤枝市立総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・藤枝市病院事業職員の常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(病院総務課)があります。 ・ハラスメント委員会が、病院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。また、地元私立幼稚園との連携保育も行っています。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラ ムの環境	<ul style="list-style-type: none"> ・指導医が15名在籍しています。(下記) ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策研修会を定期的開催(2015年度実績: 医療倫理1回、医療安全4回、感染対策2回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス(予定)を定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的開催(2015年度実績3回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス(2015年度実績 藤枝学術カンファレンス10回)を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

認定基準 【整備基準 24/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 15 演題の学会発表（2015 年度実績 東海地方会 11 演題）を予定しています。
指導責任者	毛利 博 【内科専攻医へのメッセージ】 藤枝市立総合病院は、静岡県中部に位置する中核病院であり、志太榛原二次医療圏約 47 万人の急性期医療を担う基幹病院です。2015 年 4 月に救急病床 20 床を有する救急センターが新築オープンし、2017 年 4 月の救命救急センターの指定を目指しています。 2016 年度は初期臨床研修医 22 名、卒後 3～5 年目の医師 21 名、その出身大学も多岐にわたり、若手医師が良い影響を与え合い大いに活躍しています。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 15 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 2 名 日本感染症学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 1 名 日本血液学会血液専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 1 名 日本神経内科学会専門医 1 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 1,037.1 名 (1 日平均) 入院患者 473.5 名 (1 日平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地元医師会と極めて円滑な協力関係にあり、急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本リウマチ学会教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本神経学会専門医准教育施設 日本呼吸器学会専門医認定施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本透析医学会専門医認定施設 日本がん治療認定医研修施設 日本胆道学会認定指導施設 日本老年医学会認定施設 など

37 医療法人同心会遠山病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初期臨床研修制度協力型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 指導診療医として労務環境が保障されている。 ・ 女性専攻医も安心して勤務できるように、個室が完備され、当直室も整備されている。 ・ メンタルストレスに対して臨床心理士が配置され相談機能がある、
認定基準	・ 指導医が 8 名在籍している (下記)。

【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・医療安全、感染防止対策に係る研修会を定期的に開催（2016年度実績4回）し、受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス（2015年度実績1回）を定期的に開催している。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしている。
指導責任者	青木俊和 【内科専攻医へのメッセージ】 遠山病院は横浜市立大学の二つの附属病院の地域医療研修病院として毎月 2 名程度研修を行い初期研修に携わっています。また人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 4 名、日本内科学会総合内科専門医 4 名 日本消化器病学会消化器専門医 1 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、 日本内分泌学会指導医 1 名、日本糖尿病学会指導医 1 名、 日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会指導医 1 名、 日本血液学会血液専門医 1 名、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 6,061 名 (1ヶ月平均) 入院患者 2593 名 (1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	研修手帳 (疾患群項目表) にある 13 領域 70 疾患群のほとんどの症例が経験することができます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	三重県の中勢伊賀地域の二次救急医療機関として急性期医療を担っている。 また、高齢者の QOL を高めるため福祉施設などや診療所とも連携を推進し地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会 認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本循環器学会循環器専門医研修施設、 日本透析医学会教育関連施設、日本消化器内視鏡学会専門医修練施設、 日本プライマリケア学会認定医研修施設、日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設、

38 山梨県立中央病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・地方独立法人山梨県立病院機構の非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生委員会）があります。 ・ハラスメント防止委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 18 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（神宮寺禎巳副院長）、プログラム管理者（梅谷健統括部長）（ともに指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と職

	<p>員研修センターを設置します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療倫理・医療安全・感染管理講習会を定期的に開催（2015 年度実績 13 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：MSGR：Medical Surgical Grand Round、がんセンターボード、バスキュラーボード、地域連携研修会、緩和ケア勉強会、特別講演会；2015 年度実績 60 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に職員研修センターが対応します。 ・特別連携施設の専門研修では、電話や週 1 回の山梨県立中央病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
<p>認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 11 体，2014 年度 3 体）を行っています。
<p>認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し，定期的に開催（2015 年度実績 25 回）しています。 ・治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2015 年度実績 10 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています。
<p>指導責任者</p>	<p>神宮寺 禎巳</p> <p>【内科専攻医へのメッセージ】</p> <p>山梨県立中央病院では、二次救急を担当する市中病院として common disease を数多く経験することができる一方、臓器別のサブスペシャリティ領域に支えられた高度な急性期医療も経験することができます。救命救急センター、周産期医療センター、がんセンターをはじめとする、数々の県センター機能を担っており、重症疾患や難治性疾患も経験することができます。</p> <p>主担当医として、入院から退院までの診断・治療の全経過を、責任を持って担当することにより、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になっていただきたいと考えています。</p>
<p>指導医数 (常勤医)</p>	<p>日本内科学会指導医 18 名，日本内科学会総合内科専門医 12 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名，日本腎臓病学会専門医 2 名， 日本循環器学会循環器専門医 4 名，日本糖尿病学会専門医 2 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名，日本血液学会血液専門医 1 名， 日本リウマチ学会専門医 1 名、ほか</p>
<p>外来・入院患者数</p>	<p>外来患者 22,433 名（1 ヶ月平均） 入院患者名 14,624（1 ヶ月平均）</p>
<p>経験できる疾患群</p>	<p>きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる技術・技能</p>	<p>技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。</p>
<p>経験できる地域医</p>	<p>急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病</p>

療・診療連携	連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器学会指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓学会研修指定施設 日本透析医学会研修認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本リウマチ学会研修施設 日本神経学会認定教育教育施設 など

3) 専門研修特別連携施設

39 みながわ内科クリニック

施設管理者：皆川 冬樹

担当者：皆川 冬樹

連絡先：（電話）045-897-4340 （e-mail）fuyukim@mac.com

所在地：〒247-0006 横浜市栄区笠間 2-14-1 セサミスポーツクラブ大船1F

ホームページ：https://www.sakae-med.org/navi/navi03.php?org_id=10

40 医療生協かながわ生活協同組合 藤沢診療所

施設管理者：野本 哲夫

担当者：中尾 匡史

連絡先：（電話）0466-25-2514 （e-mail）cl-fujisawa01@mc-kanagawa.or.jp

所在地：〒251-0052 藤沢市 藤沢 854-4

ホームページ：<http://www.mc-kanagawa.or.jp/>

41 公益財団法人 神奈川県結核予防会 かながわクリニック

施設管理者：杉政 龍雄

担当者：酒井 健

連絡先：（電話）045-251-6592 （e-mail）sakai@kanagawa-ata.or.jp

所在地：〒232-0033 横浜市中区元浜町 4-32 県民共済馬車道ビル内

ホームページ：www.kanagawa-ata.or.jp

42 神奈川みなみ医療生活協同組合 逗子診療所

施設管理者：芹澤 豊次

担当者：芹澤 豊次

連絡先：（電話）046-872-3530 （e-mail）s3-jimucho@k-minami.or.jp

所在地：〒249-0006 逗子市逗子 4-1-7-1F

ホームページ：www.zushi-clinic.jp

43 医療法人社団 松和会 弘明寺腎クリニック

施設管理者：小坂 直之

担当者：佐藤 才華

連絡先：（電話）045-730-5255 （e-mail）gumyouji-cl@showakai.or.jp

所在地：〒232-0056 横浜市南区通町 4-94

ホームページ：

44 中島内科クリニック

施設管理者：中島 茂

担当者：中島 茂

連絡先：（電話）046-829-1091 （e-mail）toiawase@nakajima-naika.com

所在地：〒238-0011 横須賀市米が浜通 1-17 YMビル2F

ホームページ：www.nakajima-naika.com

45 公益財団法人柿葉会 神奈川診療所

施設管理者：赤塚 英則

担当者：赤塚 英則

連絡先：（電話）045-441-0225 （e-mail）redhiden@rb3.so-net.ne.jp

所在地：〒221-0043 横浜市神奈川区新町 1 5 - 6

ホームページ：作成中

46 田浦内科クリニック

施設管理者：杉山 厚

担当者：杉山 厚

連絡先：（電話）046-860-1788 （e-mail）taura-medicalclinic2004@email.plala.or.jp

所在地：〒237-0076 横須賀市船越町 1-58-6

ホームページ：www.taura-med.jp

47 清水ヶ丘病院

施設管理者：杉山 正春

担当者：長谷川 潔

連絡先：（電話）045-231-6714 （e-mail）simizugaoka-hp@room.ocn.ne.jp

所在地：〒232-0007 横浜市南区清水ヶ丘 17

ホームページ：http://www.iryokyou.or.jp/02area_consult07.html

48 上六ッ川内科クリニック

施設管理者：三島 渉

担当者：三島 渉

連絡先：（電話）045-306-8026 （e-mail）clinic@kamimutsukawa.com

所在地：〒232-0066 横浜市南区六ッ川 1-873-3 サンシティビル1F

ホームページ：www.kamimutsukawa.com

49 医療法人 横浜柏堤会 よこすか浦賀病院

施設管理者：阿部 裕

担当者：大場 俊介

連絡先：（電話）046-841-0922 （e-mail）s_ooba@tmg.or.jp

所在地：〒239-0824 横須賀市西浦賀 1-11-1

ホームページ：www.uraga-hp.com

50 医療法人平和会 平和病院

施設管理者：高橋 修

担当者：高橋 修

連絡先：（電話）045-581-2211 （e-mail）takahashi@heiwakai.com

所在地：〒230-0017 横浜市鶴見区東寺尾中台 29-1

ホームページ：www.heiwakai.com

51 医療法人社団 小磯診療所

施設管理者：磯崎 哲男

担当者：磯崎 哲男

連絡先：（電話）046-842-9571 （e-mail）koiso@diana.dti.ne.jp

所在地：〒239-0813 横須賀市鴨居 2-80-9

ホームページ：www.koiso-clinic.or.jp

52 社会福祉法人 心の会 三輪医院

施設管理者：千場 純

担当者：千場 純

連絡先：（電話）046-822-7045 （e-mail）chibajun.miwaiin@gmail.com

所在地：〒238-0056 横須賀市鶴が丘 2-3-2

ホームページ：<http://sakura2000.jp/publics/index/2/>

53 医療法人社団 はとりクリニック

施設管理者：羽鳥 裕

担当者：羽鳥 裕

連絡先：（電話）044-522-0033 （e-mail）yutaka@hatori.or.jp

所在地：〒212-0058 川崎市幸区鹿島田 1-8-33 はとりビル 3F

ホームページ：www.hatori.or.jp

54 医療法人社団柏信会 青木病院

施設管理者：角野 禎子

担当者：昇 成樹

連絡先：（電話）046-873-6555 （e-mail）hosp.aoki@nifty.com

所在地：〒249-0005 逗子市桜山 6-1336

ホームページ：www.aoki-hospital.or.jp

55 医療生協かながわ生活協同組合 戸塚病院

施設管理者：端山 雅之

担当者：岩瀬 祐香

連絡先：（電話）045-864-4155（e-mail）hp-ikyoku@mc-kanagawa.or.jp

所在地：〒245-0062 横浜市戸塚区汲沢町 1025-6

ホームページ：totsuka-hp.jp

56 医療法人社団景翠会 金沢病院

施設管理者：高山 篤也

担当者：高山 篤也

連絡先：（電話）045-784-5120（e-mail）atuya_takayama@keisuikai.or.jp

所在地：〒236-0021 横浜市金沢区泥亀 2-8-3

ホームページ：<http://www.keisuikai.or.jp/>

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・図書室 インターネット 電子カルテ整備 ・常勤医師と同等の労務環境 ・院内保育所あり（24時間）。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・院外研修可能 ・医療安全・感染対策委員会への出席。 ・地域連携での研修参加。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・消化器・呼吸器・循環器症例あり
常勤医	内科医常勤 4 名
外来・入院患者数	外来患者 6,328 名（1ヶ月平均） 入院患者 3,328 名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	消化器・循環器・呼吸器・DM
経験できる技術・技能	内視鏡・エコー
経験できる地域医療・診療連携	病診・病々連携・在宅医療

57 医療法人社団水野会 平塚十全病院

施設管理者：松島 敬忠

担当者：鈴木 周雄

連絡先：（電話）0463-32-8511（e-mail）juzen@peach.ocn.ne.jp

所在地：〒254-0915 平塚市出縄 550

ホームページ：hiratsuka-juzen.com

58 公益財団法人 神奈川県結核予防会 中央健康相談所

施設管理者：城戸 泰洋

担当者：酒井 健

連絡先：（電話）045 - 251 - 6592 （e-mail）sakai@kanagawa-ata.or.jp

所在地：〒232-0033 横浜市南区中村町 3-191-7

ホームページ：www.kanagawa-ata.or.jp

59 医療法人横浜柏堤会 戸塚共立第1病院

施設管理者：福島 元彦

担当者：戸川 凌

連絡先：（電話）045-864-0125 （e-mail）r-togawa@tmg.or.jp

所在地：〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町 116

ホームページ：www.tkl-hospital.com

60 三浦市立病院

施設管理者：小澤 幸弘

担当者：南 雄大

連絡先：（電話）046-882-2111 （e-mail）byouin0101@city.miura.kanagawa.jp

所在地：〒238-0222 三浦市岬陽町 4-33

ホームページ：www.city.miura.kanagawa.jp/byouin/

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	<ul style="list-style-type: none">・ 臨床研修協力施設である。・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。・ 研修医師として労務環境が保障されている。・ メンタルストレス、ハラスメントに関して病院に衛生委員会が設置されている。三浦市役所の人事課とも必要に応じて連携。・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	<ul style="list-style-type: none">・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（年 2 回ずつ）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	<ul style="list-style-type: none">・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、代謝、呼吸器、神経および救急分野で定常的な専門研修が可能な症例数を診療している。
指導責任者	兒玉康史 【内科専攻医へのメッセージ】 三浦市立病院は二次救急拠点病院であり、三浦半島地域の救急医療を担っています。また地域密着型の病院として地域に根ざした医療を行っています。
外来・入院患者数	外来患者 7,700 名(1ヶ月平均) 入院患者 237 名(1ヶ月平均延数)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、62 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設（内科系）	日本消化管学会胃腸科指導施設
-------------	----------------

61 うしおだ在宅クリニック

施設管理者：小澤 仁

担当者：菊池 輝

連絡先：（電話）045-574-1011 （e-mail）ikyoku@ushioda.or.jp

所在地：〒230-0001 横浜市鶴見区矢向 1-6-20

ホームページ：www.ushioda.or.jp/

62 しまむらクリニック

施設管理者：寫村 健

担当者：寫村 健

連絡先：（電話）044-788-0008（e-mail）takesuica@aol.com

所在地：〒川崎市高津区子母口 497-2

ホームページ：http://shimamura-clinic.jp/

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・院長が総合内科専門医・消化器内視鏡指導医・肝臓専門医・がん治療認定医をはじめ学会評議員の資格を有し、総合内科的な一般診療をベースとして川崎中部地域の中核医療機関として診療を担っております。 ・非常勤医師は、呼吸器内科専門医・感染症専門医・糖尿病専門医・腎臓専門医の医師たち総勢 10 名が診療所の治療をサポートしている医療機関です。.
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・消化器系疾患・臨床腫瘍（緩和ケア）・糖尿病内分泌疾患を始め、一般内科的な疾患から各分野の専門疾患の診断・治療まで、患者様の外来での診療や更には在宅での訪問診療を経験することができます。 ・特に、癌終末期の患者様をご自宅で緩和ケア・看取りをすることを通じて、患者様の肉体的な苦痛をケアするだけではなく、そのご家族様の看病・介護に対する精神的苦悩をケアすることの重要性が学べます。.
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	外来患者数（1 か月 3 4 0 0 名） 上部内視鏡検査（1 年間 1500 例） 下部内視鏡検査（1 年間 1000 例） 内視鏡下手術（1 年間 7 5 0 例） 訪問診療患者（月 1 2 0 例 癌患者 35 名 慢性期疾患 85 名 年間看取り 50 例）
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・院長が米国留学や国内研究機関での勤務経験があり、随時研究サポート・指導も可能です。
指導責任者	寫村 健 【内科専攻医へのメッセージ】 患者の病気の診断・治療を学ぶだけではなく、患者の生き立ち・生活スタイル・家族背景を探り、患者様やそのご家族様が苦悩している本質が何かまでケアできる診療をご指導いたします。
外来・入院患者数	外来患者 3400 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	消化器・臨床腫瘍・呼吸器・糖尿病内分泌代謝・腎臓・感染症
経験できる技術・技能	内視鏡（上部・下部）検査 ・ 内視鏡下手術
経験できる地域医療・診療連携	癌患者様への化学療法・在宅での緩和治療や看取り。慢性期疾患の患者様への訪問診療